文物考記

第四

谷上郎

2906
572

ル 4
1873
4

2906
572
4287

1873
4

和州舊跡圖考目録

第四卷添上郡

紀寺 付御靈社事
新薬師寺
藤原
八嶋寺
龍腹寺
和爾
人丸墳
光仁天皇陵
頭塔
不空院
八嶋陵
永井里
山村
櫟本社
田原陵二基

38- 0061

菩提山 付 兼俊僧正○藥師佛○佛牙
舍利○并真
石淵寺 付 勸操僧
都○石淵八講事○廢亡○逢火塚事
中川寺 付 實範大德事
恐厚山
笠置山
眉間寺
佐保山
聖武天皇陵
佐保山東陵
左保山西陵
淡海公墓
欲良納夜麻
元明天皇葬所 付 七丈抓事

不退寺 付 真如法親王佛事料養園
○葉子朝臣自屋像事
法華滅罪之寺 付 國分寺○鴨毛屏風
○觀音○維摩像○舍利○再興事
横笛堂
阿閦寺
澤士院
法華寺社
海龍王寺 付 玄昉僧正○毘沙門出現舍
利事
楊梅宮
惠義押勝家
楊梅陵
奈保山東陵
奈保山西陵

諸高墓　柏木杜
蓆枕川　大安寺付貧女福貴
祈雨○聖武天皇勅定資財目録
○聖廟神毫縁起○廃亡○鎮守八幡○石清
水雨
辰市社　陵
賣間清水　辰市
奈良墓　真野萩原
大念佛宗大和國本寺付良忍上人○法明
上人○芳野餅雖○神輿善縁雨

南都七大寺
延喜式神名帳

南都十五大寺

和州舊跡幽考第四卷

添上郡

紀寺　紀寺は旧名建城寺行基菩薩乃開基縁起

紀寺は旧名建城寺行基菩薩乃開基縁起
極武天皇延暦二年十二月封戸を給へ
しうり釈書　その後破壊よおよびしうば紀有常
朱興そうしゅうしうり紀寺せいふ又市霊乃
社も崇道天皇よりくゆ　ます　宇智郡れ霊縁起

頭塔

頭塔ハ玄昉僧正乃枯髑髏を納しあ
盤觴よりしくありその比太宰帥藤原
五位下藤原朝臣廣嗣せいふあり廣嗣の
書あらあらせよりあらせよ心ぞせよゆうよ

やうりう玄昉僧正を遣唐使となのびやうに
遣つかはすよ廣嗣はかうらみうらみとて
やなりうなりはやそ（欠書）又光明皇后と玄昉と
みそう事ゆゑ廣嗣密奏をよみて
きあつめもつて強いびて文よ后と玄昉と
横行あらべ家とおもふ
しはなそよあるべうらよ養をし狂よみて
ひそうに后宮乃麓陽うりん強ふよ后を
十一面観音玄昉八手手観音よあらられ
凡く強ひうりみど悪臣のおひわれ
つるうより廣嗣反逆乃うるわり（威表記）
又廣嗣表をなまるよ時政乃得失をうべよ
天地乃異異とうる玄昉僧正ゆゑ下道

朝臣真備筑紫のぞ紀（後日本紀）
又玄昉僧正廣嗣を狐伏そうきをるとあ
る（手家物語）ゆる狂よ廣嗣朝敵ゆゑなりうられ
ゑ。後天平十八年六月丙戌巳実ゆうう観
音寺乃供養うり導師玄昉僧正を虚
空よゆうみくんぞ人うれ廣嗣が霊
ありとぞいひあへり（後日本紀）同十九年
六月十八日拓龍殿よ玄昉ゆゑ沼とくく
真猫寺乃傷ものぞ拓ゆゑ沼とくく
よ拓ゆゑ拓る（平家物語）又唐院
へり（威表記）是筆よゆゑ拓とも
ハへり抑廣嗣国家をうゆゑ拓けなんと
て軍兵群をなそうう国うう天平十

二年九月大野朝臣東人を大将軍とし
紀朝臣飯麿を副将軍として兵卒一万
七千人を以て向ふ
かして軍を遣はす
あげ軍兵を以て
廣嗣を辛島勝
廣嗣敗死
ふ廿三日松浦郡値嘉島長野村に
て廣嗣を生捕
奏聞を経て二月一日肥前国松浦郡
めて廣嗣をつれ
捕る所の与党死罪廿六人役官五人流罪
四十七人徒罪廿二人杖罪一百七拾七人と
で関元 後日本紀 又の説廣嗣名馬ありの

海中に駆入りて
ろ紀年ども地
多ありて延喜七年
新薬師寺
新薬師寺は聖武天皇乃出願
たる造ひしやくの像造立ありて
重へ造せ給ひ
給ひしなり 九順紀
不宣院
不宣院乃元来しるべ多時大徳乃伽藍
なり多羽天皇乃造営ま中古戒律を弘
通せらるる一人あり 佛法伝通記
藤原 藤原野国乃苗よあり

亡霊あるべく常よ招
り 年家 借 天平十八
多ありて延喜七年
九百廿九年
池水と名ありて寺領
百石
池同様
池を造りて
池同あり
寺領北石

八雲立ち出づる歌樂宮は藤原よりとゝ
うり侯どゝ今はぶぶ御ひもけぶ
平城宮は是より一里ばかりゆよこち
あり藤原乃京は六里南乃高市郡よ
ゆあり今はくもくあらくゝ絶べし家の
藤原をとゝある歌
天家紀 二巻 山神乃ちゝひよ河藤咲乃もゝ藤原里
八潮陵
藤原乃南よあり帝王編年曰古市九
里乃南あり
八潮は崇道天皇乃陵ゝて添上郡ゝ
あり延喜式 仁家 沢井 柳ち天皇は恒武天皇乃皇
子ゝて早良乃親王とぞゝ申ち紀恒武

天皇乃御字天應元年ゝ春宮ゝよりて世
絶ゝ一ぶゝ紀世ぶ乃傳りて延暦
四年ゝ春宮ゝ絶ぶ乃傳りて世ゝ
ゝ漢路國ゝあぶち配所ゝくゝ
世絶ゝ紀世ゝよりて世中
乃人ゝ世ちきゝ世ゝ
世年門ぶ紀ぶ死ち
長慶漢路世ゝ
船風波ゝ
親王乃ゝ
ちてゝ
ゝと奏ゝ
五百枝を勅使ゝして漢路國ゝ

親王乃貴とむくへなりて大和國八瀧陵
よおはしめくまつりくハ水澄よりくくり
ち後延暦十九年早良皇太子と崇道
天皇と後乃池若と給へ紀ふの勅使
ハ大伴宿禰是成又漢神の國乃陵よ謝し
ち紀又小納言藤城王をして追尊の
事をの陵よおはしめ給ふ類聚國史延暦七年
より延寛七年まぐ九八百八十二年う

八瀧寺

寛治山階乃地へ八へれハ 歌書 山階寺ち
紀ふるまべ山若ありをるもやしこ
八瀧寺ハ延暦廿六年山階乃地よ遷ありて
天下よ勅をくぐ國くく乃橋をろ

ち別倉よ入おはせ山寺よおはしめて崇道天皇
よ為尾をの給ふ 歌書 天長
九年八瀧乃陵乃國忌をやくめ給ふやなり
格抄 延暦廿六年より延寛七年迄九八百七
十四年う

永井堂

八雲抄 よや海をの國なり又摂津國
後百首 岡若ありハ瀧乃西よ永井の里
まぐら紀乃永井ハ池ハ底をて長宮よ
ち 神殿村とハ ありう
龍腹寺

彩腹寺ハ南都よ見ぬ名ねて題けの給よ
水れ出おけく春乃種をおろおねぬ秋乃
実をまべ紀よあらぐおらば西乃ハ乃りよ

潮義八講紙とて篠ぞうれけるよ人群をぞ
るけり篠をとりて人ゑれくりしよ若狭
ひとり海を篠師よもひ鈴女成仏文心
所よ鎖し鈴宮城をとひ成仏却よ却ひと
うくまれ山原よ両をまんうくまんまやや
もそれどもいまいかに鈴大鈴主乃山
をひまぐえぐて ぬくぬ バ命紙害ぎう
るくやくくく養提よくん命を霧ぐりをや
ちくく蕚ちりもうくしりぐ命を捨くく両を海
くくん養提ハ篠師よ海せまるとひもん
てぬよ雲くぐり蒋を盧宣ぞうれけり風
俗よ雲おこりて両車軸乃ぐくく泉舟艫を
ひぐくるん民を轍魚乃三市乃水を求め

鈴ゑる乃一天の雲よ翔るおひあり雨降雲海
て拍るくハ小の石をおくけるやと鞠寺
響くりあやくやくん巻を鈴三川よをれて
篠くりけくけくがれ菩提ちくく龍頭寺鈴
尾寺龍腹寺とて三寺紙ぞてとぬくひをる
今の龍腹寺そ乃ありけり 雑談集

山村

山村を欽明天皇元年二月百濟国乃已和部
末ぎり添上郡山村くくくめ紀今乃山村
乃已紙部乃先祖乃山村乃日本紀よあり

和泉　山村乃南

和泉ハ伊勢新宮ぞやあよくくを篠師やまと
都介乃紙宮ぞて伊勢をそるん和泉の川

乃たうひ志賀ひく〳〵ト郡より祿をゆ給りそれ
より大安寺のそうりゆ給く奈良坂を越山
城國相楽乃郡宮より入給ふ〳〵沼家吹乃郡より
あり

櫟本社 和名の南

手願天王 山城の紙園同神や ト弥兼供 迂宮記

凡社乃名屋乃内より櫟本寺ありその東
より人丸乃墓あり

人丸の墳

人丸乃墳ハ大和國添上の郡派道乃櫟本寺
より あり 文明八年勸進帳 清埔集よりやはとのいそのゝ
やしろふるの櫟本寺やしろふるあるの墳あ
ると同〳〵卒都婆より櫟本乃人丸の墓や

ちうりよ凡神とるん乃紙ゆる
世界をあべり清る繋て蔵ひ乃ちせ乃り
村乃らのどもあまり〳〵あやゝ乃爰紙そんんり
きりとあり

清埔集より

やうより俗ども和名類聚より〳〵添上の
郡より石上郷あり凡ある添上の郡のうづま
いそのうゝ乃流るり

又鴨長明ハ人丸乃墳ハ和泉へゆる道なり而
乃人を歌墳と必へり 無名抄

凡而ゝん清埔長明ゆ乃詞ようゆやう
よそ乃〳〵俗り又ゆ乃道乃程四里
南乃高下の郡より人麿乃墳なりびより柳

本寺とのみよ草室あり又芳野の山中
に人丸の墳あり
柳本人丸ハ生きて而又をりて而をはるとい
ふ也乃屋像ハ藤原の数
光乃賛ハ朝野群載ハ紀貫之の序ハ
紀貫之の序ハ又時代の石碑
配流の居実等ハ続林採葉ハ
拾遺集ハ
時の歌とのなりき伝ども上道の人丸王
子乃人丸田ハ乃人丸とて同名異人あり
てあるなるべいなるべいかや近国
なるぬ流官ぶに日本紀実録等ハ人丸
伝ハ乃ハ紀三河乃ハ乃大夫の墓

ハ人丸ハ伝ハ乃ハ紀又どもハ
のやうに伝ハ乃ハ歌乃真和とも同
伝ハ今又贈ハ
国原陵二墓
藤野園より二里ばかり東に陵一墓あり
伝に王乃墓とハ
国原陵ハ春日宮乃御宇の天皇なり大和
国添上郡にあり三代実録
皇統七の御子志貴親王とをりて霊亀
元年六月にうくれさせ給ひ紀後乃世益
春日乃宮の天皇也をうり給ひしなり 續日本紀 光仁
後国原陵ハ人王四十九代天宗高紀天皇
や国との西添上郡にあり 三代実録 寛亀十一年

十二月乙酉下未葬あり陵は七十三
の元年の自廣岡山陵ようりう寺記式目廣真
後延喜三年八月紀陽師り勅して大和
國より陵の地をんをもめ同じき十月甲子朔
申乃日陵とあるあて田原ようたし築し
ゝり後日本紀 ゝり田原天皇とぞ申なり
記正統

光仁天皇の陵

人皇四十九代光仁天皇天應元年十二月より
葬あり築ゝ廣岡陵ようりう寺記後日本紀真
後田原陵より改葬せる田原村乃ゝ廣岡
あり

菩提山寺領三百石當代真言宗

菩提山正暦寺龍樹院は正暦年中勅願
ゝ兼僧正乃建立し僧正は法眼院
模政兼家乃ゝ子なり後建保六年信濃大
僧正乃真眼あり是を中興開山なり
ゝ大僧正を月輪猛宗の本尊
師佛を龍樹菩薩乃作なり築ひしと善云
曼三藏乃来朝乃時すて築ひ紀又佛牙
の舎利あり是は法師上人乃ゝ子蓮光法
師のおしめ寺あり寛永六年上の時
を乗乃像火もそこなられさせ築ひ
年乗真あり當寺記
石剛寺

る奥山乃東よりは寺よりゆあり儀よ石
剛寺よ勤操僧都とゆあり秦氏なりて
大和国高市郡乃人なり大安寺乃信霊を師
として後八善議法師よ三論を学ひその後
しらよ宗震殿ゆて法家乃碩徳をあ
つめものく義をとうてうまつりてうば座主ゆそる
ゆ世後ひ弘三論を春父やしゆ相を良子
やをうまつる後よ僧都を師とうり釈書
▲石剛八講乃監觴ハ勤操僧都をあ大安
寺よゆ後ひ一時陳房よ業好とゆひくんを
やゆ弘法師あり老母をやしなうよひり

の童子ゆ紙法人ものやをうまつりてうをは
七大寺乃庫まて焼をうる業をくして別
院よ飯をとり弘年乃冬ゆふりて僧坊よ是
をとり乃毎人よ四後をたつ乃事まそあり
きる業好是をうけて一分ハ母乃そをへ
なり一分ハ童子よあるへ一分ハ行乞よ施し
一分ハそ乃うのうてとり後ひなあよ業を
ぞ法くゆきるまうありて後よ業好をく
をりうり童子ハ師よりゆれぬのをうむ業
しまんゆを拾乃一又老婦をうりのり
雑ありてうそをへをそんとくんをうをゆ
クバ勤操僧都あうれぐり後ひくく童子ゆを
二人まのびやくにうを我を業をうれけり拾老

婦ゆき業好は世よりありがほよきうをよそをへ
ゆき稚ことけあんとして目どにはたらかはまてうば
老婆久しく業好乃乃くぬをあやしまれぬ
る解きくゆきうくく乃事乃はうひくくはい
ま絵ひぞきの中きさえ事ありておうをびをぞ
やしあくぬ事どもはたりあてはしくば業好
ハ世よあるぞとハ却ゆまけの明辛僧都よ
客あまくあり所の事ありれば老婆のそ
をへとりもれ童子をも酔て猫ありしがめて
乃をハ自ちうにうけうりとあさはくて
そをへとぞなりをる老婆ふをとと思うけ
うり業好をとこうりをるやとはぶやれうう
ありげよ傷をハ童子そのをとをとくうり

をうぐ独よりうりぬをきてぞ老婆ありやしみくいう
をまをハやをうぐハおりぬるぞとくうとれ
しよをあうべ紀をんをんをうぞ兵あり事
どをうりあうり老婆業好をくありとうく
りくとはぞうり紀浪入うり童子くとうく
て老婆乃死をえハ我ありをとと兵る
げ紀よをぞをくくどを浪よ同志七人して
石剛寺乃うちうよをうぬりうり僧都をあれ
ぐり絵ひくく法華八巻をうり八人しをく
一巻ぞをみくく亡婆の遍義とをんハいるや
七人をとうけありくば四日二座乃説序
をぞ一絵ひうりあをハ法華八講会とくふ
延暦寺文ようぞまりうり毎をとうり

命世より石剛八藤とゝ是より天長四年の月
七日西寺乃中院よりをとり給ふ年七十三釈書
▲慶元八百是ゝへて乃ふ天地院より鬼あり石
剛寺乃僧ゑふ乃ゆへやありゑん鬼とやいで
よりけてその跡を義藤山乃西乃麓まてお
ゑで拾ゑぞうをけり山寺天地院乃法師等
遣恨やもゝうゞ或ハやなぐゐをおひ或三尺
をとこゝゝ三笠山の東乃山道を強く石
剛寺よりをゝんとも石剛寺まゝうゝゆ
てけうバ逆よせよそんとゝぞ山法師ゑを
西乃大鐘を強てよせけり強よゑ陳ゐゝぐひく
人をゑ紀寺よりをゝぐひよりせうり剛をけうり
火ををゝうりて寺ゑ拾ゑぞ乃ゝりとゝう

そをゝより寺ハゑぐく激よをり天地院乃
強ハ東大寺のうしとゝ義藤山のひゞまり
ゝ乃児法師を義藤山乃西乃麓とゝ塚よ
けゝ紀けゝゞ拾りく火乃ゑゝくゝゝゑ寺あり
ゝをバ宿よ逢火乃塚とゝぞ中

中川寺 京良の東

中川寺成身院乃開基寛範大徳ハ藤氏
練儀太史敬賢乃甥乃ゑやゝゞめ悪寿山
よ西強ひ〜所紀をゝゝめ強ひをんとて中
川山よ入強ひ〜ゞ乃ゝ紀ゝ乃ゝ紀ゝ強
よ寛よりゑひゝく仏盛をゝく成身院と
紀けゝけらをゝてあり釈書

悲厚山 奈良乃うとゝ二里ばり寺領
二百九十五石真言宗

恐辱山四成寺ハ[illegible]あり乃盧舎那仏和尚乃開
基なり南山智恵院乃位牌堂あり

笠置山

うちゐ紀山や海との間や捨木折あり[illegible]れた
山城国より流れる

依保山

はゐ川乃南乃方とよりぐれば山
乃ふもとや海とちよりぐ紀西乃尾ハ紀ハ
流れ川乃郡乃はゐ川ひとあり

万葉集

我をこそ君らん依保道乃[illegible]大伴坂上郎女
久安百首

牧穂山より[illegible]の表そあり[illegible]
眉間寺領百石律宗

はゐ川乃はゐ山なり
依保山眉間寺ハ聖武天皇乃御建立とゝ
眉間寺乃壹乃塔よりぐ聖武天皇
依保山南陵あり[illegible]
紀墳三四基あり

聖武天皇乃陵

勝寶感神聖武天皇ハ依保山南陵添上郡
[illegible]延喜式天平勝宝八年五月二日より[illegible]
[illegible]同月[illegible]乃目ハ陵より[illegible]
[illegible]本紀ハ天皇ハ行基菩薩より菩薩戒
[illegible]ひく[illegible]寺[illegible]
おろ[illegible]ひく勝浦と[illegible]
[illegible]

▲山陵毎年毎度毎年ごとのりありそれぐ
中より二月とり紀のを修る齋衡三年五
月東大寺大佛のみてゝ始り世修ひ時の
ことのり
遣右大弁従四位上清原真人岑成向伊
保山陵曰天皇恐手掛畏支伊保山
陵尓奏賜因奏久御願止之奉造理給工留
東大寺乃盧舎那佛代人経尓太天自然尓
毀損天玄年五月二十三日頽落給利因茲
参議官内々従四位上源朝臣多安親等
従四位上清原真人龍雄等遣差使天可奉
造固状申奏給工利而国家平繁久故障多
天今尓太天急利今奉始天的久奉造固留畏

山陵乃御願尓相助護給今仮天之佛毛奉二
造固利平久可在止之天右大弁従四位上清
原真人岑成平差使天恐手恐手奏賜久止
奏文徳
▲無福寺奏上乃みことのり
実録
維永兼二年歳次丁亥二月十四日己未右
日良辰尓大日本国開自従一位行右大臣
藤原朝臣掛毛畏支伊保山推崇廟乃廣
前尓恐畏恐畏申賜久止申久真福寺波霊
廟乃所建之也其後次々乃皇后並相乃
加作毛堂塔毛有其数中畧宏玄年十二
月廿四日夜不慮于有火天数宇乃堂舎一
時于為灰太利忽開比告天氏乃卿相寺士引

寧天參謁世留廟祢堂宇雖爲燼毛佛像彼免
煙多麻利恵 不覺之淚谷下天不知所載須臾
續日本紀

他保山東陵 西都ゝ

ゝ乃みゝぢ乃天辰物ゝゝ氏ハさ乃山東
乃陵そふの上乃ゝりにあり延喜續日本紀曰
寶字六年七月丙午朔壬申ようを山せ猪ふ
八月丁卯朔千尋葛藤る紀天寶姫之ゝるゝ
後乃山名ゝ猪ふ山ふ葬ゝ生る

他保山西陵

聖武天皇乃陵より西よあり法蓮村乃
東ゝりゝとれゝるゝゝ
平城帝乃天辰物ゝゝ氏さ乃山西乃陵

深上郡よあり延喜廢帝四年六月乙丑天平
應真仁正皇太后山辛六寸ゝてゝ世猪ふ
漢海ゝ乃山ゝあ光明皇后とゝ生り紀る
ゝ天皇却ゝび皇太ゝを猪ふ同月癸卯寶
よゝゝゝりゝて中ゝ生り紀後日本紀

漢海ゝ乃墓

聖武天皇乃陵のゝよ物ゝ紀猪ふ
ゝゝゝの三四墓あり中れゝ中ゝ一墓和
よゝゝへて漢海ゝ乃猪ふ
漢海ゝ乃山よゝ物ゝあり帝王編年ゝれ
どゝ延喜式家猪ふゝゝ墓ゝあり
ゝ乃ゝゝゝゝふ乃墓乃和よあり
乃

欽良絶夜麻

八雲立出雲乃国乃八重垣乃山八重垣
国よりて又よりて山とも山とも積 日本紀曰
万葉 あしがさら欽良絶の麻迫乃志ぎくよいもわとこそ
さもとらむ
紀寛山雍良峯
元明天皇葬所
山所ハ聖武天皇推魂陵乃乾ノ方
寛政七年狐と山ノ峯ハ七月乃立石ハ
狐乃くらをあらそをおゆへよりくゆ
ばくるくらをあるを
て為代石一川流りうりその表ハ狐
乃枝をつきさ躍るちぐさありその郡ざ
ぬ世のはるを乃物とをんてぐ元明天皇

人王四十三代元明天皇
葬して蔭しまるの山ハ大和
猶ひく養老めくを十月癸未丁亥太上天皇崩
長屋王謀反事朝臣麻呂
物あり脇屋
山ハ乃ノ峯て死わらびるを
くるくみぬべちややを是月天皇乃あとをり何よりて
やぬり服とをりくて蔭しくくをりいる
ざり下くて脇ざくを後ハ天和田泉上郡
寝良峯ハ
乃ハ峯ハ真の国郡の朝庭乃宮乃天皇
と号し後乃世よりて葬具ハ金出
とりぐあ丹青ハ強うく峯ある海ど

[illegible]しく居りそゞろてやりをこのべし
五體はたらる事をれ山よ電紙はたりそこを
りをうひ裏処をそよその花よ常葉乃柳を
うへ碑をさくるとあり同十二月戊寅已
卯[illegible]より[illegible]ふ[illegible]寺六十一大和国[illegible]郡
椎山陵有よ葬る[illegible]ハ遺[illegible]よりまつり
[illegible]日 [illegible]老五[illegible]より延寶七[illegible]九九百六
十二[illegible]

不退寺

眉間寺より西ゑ六町ばかり寺領五十石
不退[illegible]法[illegible]寺ハ[illegible]
朝[illegible]乃建立ありてこれ[illegible]観自在菩薩と
[illegible]り[illegible]人[illegible]と[illegible]ひ[illegible]ありて又ハ[illegible]野

宰相乃家と寺ゆとの[illegible]恵恩寺と名[illegible]
[illegible]城上郡三[illegible]里乃[illegible]りよりあり[illegible]家よ
[illegible]れ[illegible]ると[illegible]乃又その恵恩寺ハ業平
朝臣乃晨[illegible]の[illegible]そ後家よりて不退
寺と[illegible]と[illegible]

▲山[illegible]寺城天皇乃[illegible]
[illegible]へ[illegible]り[illegible]寺城天皇ハ大同四[illegible]年
安城[illegible]て[illegible]と春宮よりゆ[illegible]り[illegible]
[illegible]乃[illegible]あよ遷[illegible]乃より[illegible]日本後紀よ
[illegible]べし

▲真如法親王佛[illegible]科と参[illegible]
許ありて不退[illegible]昌乃毒寺よ後入ありて
[illegible]三代実録よ[illegible]

▲業平朝臣のそばにうゑ紀貫之遺像あり
陽成院乃震幹乃贈曰
右近衛権中将在原朝臣業平者平城
天皇之孫阿保親王之五男也元慶
第四暦雑賓廿八日行年五十六而卒
大内記藤原朝臣道長公
法華滅罪之寺　寺領二百九石
法華滅罪寺は戸乃国分寺にして法華滅
罪之寺也　延喜廿四年法華滅
寺也　而は濱海乃
回廊　乃光明皇后乃造立乃
縁起　又乃殿業平乃巻乃
大臣正二位藤原朝臣道長公
雲山浄土観迦

▲濱海乃真福寺法華寺と建立して
乃御建立乃ものなれば聖武天皇東
大寺造営ゆりて内陳と女殿とゆうでさ
せ給ひ乃ありしより戸乃国分寺乃又は寺院でもさ
せ給ひしとこれゆうでさせ給ふ事
▲国分寺乃事大和国ゆりて東大寺乃僧乃
国分寺也　法華寺と戸乃国分寺也
しより　延喜天平九年三月国々よりこの
して丈六釈迦をうびよりて大殿
若姫一部六百巻をうつさせ給ひ
より国分寺ハ戸ゆりて　歌書　同十三年三月
くの僧の国分寺より封戸十戸水田十町施入
ありてくるまで二十人乃僧を定めて金光

明四天王護國之寺と号し戸乃国分寺ハ
水田十町ゑりぞ十人乃戸をもちて法
華滅罪之寺と号し五寺の道のゐぞとへ
ぞてられうり叔勝宝元年大和国法華寺
ハ墾田地一千町金光明寺ハ四千町ゑり
て（後日本紀）僧乃寺の安居舎るハ最勝王経を
講し戸の寺乃滅罪乃場ハ法華経乃典を
さうめ（後日本紀）（後紀）家より東大寺の道乃往
十八町ゑり光明皇后ハ順孔乃まなびどよ
そ乃道乃左右ハ東大寺まで屏風をそ
設てとうやその屏風ハ大仏くやう乃日ゑり
あしより世ゑりひてくをるゑり鴨乃毛の
屏風とゆふ是ゑり其餘

種好田良　易以得穀　君賢臣忠
諂辞之語　多猶貪情　正直之言
正直為心　神明所祐　禍福無門
父母不憂　不孝之子　明君不納
清貧長樂　濁富恒憂　孝當竭力　忠則尽命
君臣不信　国政不安　父母不信　家国不睦
易以至豊　倒心逆耳　唯人所拒
不益之臣

屏風東大寺乃勅願の食ハ
▲本尊十一面観音菩薩ハ光明皇后ぞくう
をぞみしゑり（縁起）又乃院ハ天竺健達羅国の
石乃地をもちてりて光明皇后乃ゐくらを
うぞしなんとして来朝をし所乃近乃
し像ゑりとあり（帝王編年）
▲維摩像ハむゑり山寺めして維摩舎あり

その食堂は興福寺よりうつされて後は西の北よりへなり雅摩乃像ハ三ヶ所にて作ひ一ハ興福寺の食堂にうつし作也乃乃舎利ハ光明皇后乃ハ西指り又小粒の舎利ハ一粒ハ西しなども分散ありてくだくと小事なし

▲興福寺ハ地蔵菩薩瀑乃ハ法空上人作也そうきて後ハ西大寺興正菩薩乃興ありそ後又破壊して堂一宇塔一基ありもと乃金堂の法ハ今乃堂のおなじていぶへのこまりは堂の法建立ハ慶長六年九月御母君乃ためにより秀乃豊臣氏法興ありを秀ハ所捕市

銀帽子鉛

▲當代禅宗ハ寛元三年西大寺の興正菩薩を師としてはじめ寺乃名遠御尼戒をはじめ建長元年慈善等大比丘尼戒をうけはじめ西大寺法華寺をはじめ

衣書

法華寺乃東の門乃ちよ横笛乃堂の横笛堂

横笛とハ女あり建礼門院乃雑司まそ侍乃小松殿乃侍なれは頼ようあひなれ乃ち龍よかゝる青絲乃髪延よるゝ紅乃唇世よあらバはちうる桜やちらぬりとちうぞ星とともなんと寺まちふまーゞさ事文あを

ぎりいさめうらをさんまんとをうばうらをりて
渡瀬乃法輪寺よりまでこゝりのをりけるあん
せくるゝゝてうぢゝ行ゝうどを財面
もをびゝてそれより高野山よりこゝりのを
をぬ女をくゝおろして御けうより御のう
よ関ゝ渡に入道
そ西まで根うりとも樟ちまの道よ入ぞうりの丈
屋久し
そ歌とを何ゝうをもひあげゝうれゝじ心
を後屋ハ法華寺よりをるゞ若ひのをりよ
やあり若む狂をゝくゝをりけり 平家物語 家又安
ハうゝ川の水上大井川のをや 渡 法華乃
橋乃ゝとまて 弟 をあげゝうをゝをゝんの文天

野よ渡に入道ゝうれゝうべ屋そこふ行てをん
ぞゝをぞゝてゝふゝうをせけるとも心ふ 盛衰記

阿関寺

法華寺乃前る屋のゝをもびゝふ面ぞゝり
て西ゝ中よ私の一本あり面ぞ阿関寺
乃法をり 三語集 尚代をやりをもをゝく私
をゝうゝび
阿関寺ハ光明皇后笑み御ぞり仏乃道をゝうと
み御ゝ海て伽藍仏像出蓮宝乃後をぞ
をゝ歌法心海ゝゝく后ゝ光をぞやゝうゝ久ゞれの空
よ変ありて后ゝ御ゝ事をゝれをゝ
風呂紙を紀施紙る乃仏徳をんとをゝれ
ゝとよゞりてぞ法ぞゝう后あやゝみ御ひ

て聞書紀あるて法せこそぢうう子人の塚紀
くに紀まんとらひ給ひて塚より九百九十九人
乃塚ゝ紀給へり今ひとり残るものあり
親癩とろけ膿るゝ〳〵同とそもけ給ひ
塚ゝくして鼻紀ありて病れゝ塚をぞんうでう
紀ゐ給ゝやゝ兵部ひとつまべらひよをぶ
是ひとりみてゐゐふむゝくまんやとそとに
念時より塚をとりてぞえ法せ給へりのの云
ゝ口遣あり紀やまひとうきゐるよゝもりは
人ありてゝ膿をとつめぞ除愈まんとり
ゝ部人ども雑人ういで是をとゝ海やをぞ
后大悲あり膿をとひくゝまもけ給へ
后いるひ給ひゝらりあるゝよいとり

ゝ紀をひうみ紀ゝ給ひゝうばのもの大光明
とゝゝり后より阿岡仏乃塚をとゝ給とゝ人は
笠寺ゐれとて妙相端厳乃阿岡仏とゝり
けゝうゝくよりて給ひゝ后ゝ紀ゝ
ゝゐあび伽藍をゝ阿岡寺と号し給ひ
けゝとゝり 或書言

澤池院

或人乃ゝ法華寺より坤一町ゝり西
澤池院ハ皇太后光明乃図忌をとゝひ給ひ
ゐんとして法華寺乃西南乃ゝくよ海陀仏の
澤池院をゝくゝ毎乃忌日より僧十人ゝ
ゝ紀ゝりて称隠仏をゝ一七日ゝ〳〵紀給し

まをすとぞ 後日本紀

法華寺の社 おはしまさにしかば

貞観元年四月十日法華寺に従三位薬師

高御座栖日神より正三位又従四位下法華

寺より聖神より従四位上をたまはり三

代実録より

海龍王寺 法華の東門のほとりの顔面

海龍王寺又乃名は脇寺 後日本紀 薬師寺 帝王編年

より光明皇后天平三年七月より建立延

寶七年に九百四十七年又云婦僧正

入唐乃時風波をぐやうしたもふ

▲玄昉僧正八阿乃氏義淵より法を入て唯識の

霊亀二年物をうつしてもちあり

もうり智周法師より相宗の法をうけうり

歌書 唯三品とも 紫の袈裟をきそ天平七

年真人廣成より友をひ〻く 海外あり經巻

五千余巻法佛乃像と将来そもしうむ

雑物乃袈裟袈裟施してきそ給へ

内道場より御〻しめたまとみ給ふ事月よ

ゆ〻しきもうむ 後日本紀 技芸乃童子八

人をそへ給へ九月八月僧正うり 歌書 あり

て後沙門乃行よそもし紀給ふ事どもあり

後日本紀 て時の人あさ法よりさしけるとや

▲山寺の見佛門乃像より舎利三粒出
現ゆゝく紀法華寺より山舎利とゝ人
所きしうばとより給ひ乃道乃行幸を
法ゝ宣命をぞあり玉国続日本紀よく
ゝあり

揚梅宮

法華寺西南の邊より揚梅乃天神とゝ
社あり山ゝ揚梅の宮ゝ天皇ゝ給り給ふて後
五位以上を宴し給ふゝ続日本紀
よあり

恵美押勝宅

大師押勝家ハ揚梅乃宮の南より西高
樓を造くゝ内裏に入る世乃人不思
の習ひありて見代そなるを（後日本紀）押勝ハ
天平寶字八年太政官乃奏代ゝとを
とこゝへり大納言仲丸と申人なり（水鏡）贈
太政大臣武智丸乃男なり糸藤原乃姓よ
恵美と申ふ二字を給ふ給又一人を
世代押へとこゝひゝく是よ勝ものなりをれば
仲丸乃名代ゝく押勝と付ゝきこゝりこれ
らゝれ孝謙天皇乃世ばゝゝ押勝と
てせ世を給ひゝ
ぞ給たびよ
物とぞ申あゝり（水鏡）
揚梅の陵

倭よりはるべとり山南より楊梅乃天神
をいまあり又平城天皇乃陵乃ほとり
より一字とりて念佛乃地とをんとて
善淵朝臣超勝寺乃内より〳〵をると
三代実録より〳〵うその超勝寺も山
ほとりあり坂乃ほとりはうはるべ楊梅の
陵う

平安宮乃北宇自本根子推國廣名手城楊
梅乃陵よりおさめる大和国添上郡より
延喜式

奈保山東陵 倭より大をべとをん
人王四十三代元明天皇奈保山東の陵大和国
添上郡より延喜式 兹寶山雍良岑めて

ありとあり 続日本紀 寶亀より北〳〵ふ〳〵
事のよりはるべとりてあるとをんとて
べし

奈保山西陵
山陵ハ元明天皇乃陵乃西楊梅陵の
ほとりあり

奈保山西乃陵ハ人王四十四代淳仁廃帝元正
大和国添上郡より延喜式 天平廿年四月
庚申崩御ありて此年六十九同十二月
依保山乃陵より納めたてまつる天平勝寶二年
十月丙辰朔癸酉奈保山乃陵より
之葬る 続日本紀 天平勝寶七年より延寶七年
九百三十二年ありう

諸高墓
典侍従三位飯高の宿禰諸高ハ奈良山に葬
せり日本紀

柏木杜

六条の大道乃ひがしに木材あり又
是より南に同所あり

新六抜
三笠山
名寺
柏木杜のあり
近衛と三笠山
紀伊
紀伊
紀伊

後百餘河乃河ゝ乃て百餘大寺
ゆゝ乃ゝ後ゝ帝地ようたして大寶大ちと
乃ゝ和銅三年佛藍をうびよ丈六乃佛像
ゝ紀奈良ようたはまつよ御門道慈大
唐西明寺ゝ嵩をたりしゝぶ御門らうあゞ花
張ひゝ天平元ゝ山寺を建立あり食
封一百戸を給ゝ二七年乃月よ遷業
をうゝ和大法會をひゝ紀三百町の水
田を施入あり同十七年大官大寺とあり
あ大安寺と号きゝ紀又東大西大あ
寺よ対て偽よ南大寺とゝ入へりゝゝゝ
聖廟乃法業の縁起よりゝゝ大安寺
八都寧天乃一院を天豊乃紙園精舍よ

うたし紙園精舍ゝ乃西的寺よ
うたし西的寺乃一院をうりより水後丈大安寺ハ
南都七大寺乃一ゝて地勢天神偽別尚よ
て却ゝ海ゝ寺ゝ紀ゝ乃法縁聖書乃
縁起とのゝ張ゝ紀法大師ハ門弟ゝよ養て
尚寺紀本寺とたゝぶめ張ひゝとあり勧進帳
▲むゝ貪女ゝ寺乃本号よ猫分紀祈ゝゝぶ
浅田英文をあゝへさせ張ひゝゝあり塔よ大
富賣の家とあり書紀天平元ゝ
ゝり延寶七ゝまゝぶ元九百廿七ゝ
▲天平十九ゝ聖武天皇乃勅よたゝゝび尚
寺乃資財同縁と書して寺ゝ其真
軸ゝゝびよ後花園院乃御宇乃勸進帳

乃正卷蓍擬山正暦寺乃院内よりあり資賊
撥をんるよ食封一千戸綸定出奉本稱三
十万束墾田地九百三十二町水田二百一十四
町今墾田地九百九十四町国〻よりは紀行
あり無乃未納六千九百七十九百七十九百世四
束二把四分その外あり依色金銀等の調よりのべ
〻紀中より布二万四千七百廿壱余ありと
をんをり
▲聖廟乃出業は墾起へ今乃世より始りて
奈良乃殺寺と海弱五寺陳年より
紀四を至るや
▲廢亡をきるぞうにけう一むしるやるりをん
阿離やしの育人へあり靈祇乃治をん紀

をけ紀観音乃像一軀のあるせ弱みを飛鳥
よりに二殿四面乃堂を建て大安寺より
きるをとるをり野岩紀よりるる人王六十八
代後一条院治安三年七月廿日大安寺松
の材木をありめる解文又柱十六本流
津よりひ紀よりそ為紀乃地をあり換非遠
使成通貞證ホ云事よりをとあをるよ
乃るる人王百三代後花園院乃御宇
大地震よ堂社僧坊あき果ぬまび飛騨
乃勸進より勸進帳
をるをるをりとのでるよ治
を庶乃物どのを
▲慶長年中淨家乃和尚大安寺よりを

らまつに彼像二百四面乃菊室よりそをと
記本尊を分くよわれ佛面ハ遊乃芝生乃
志記めとるをり或和尚拾弟く侵橋よ
をれりよ迹他乃書よりそり

鎮守八幡宮ありそ乃ゆりよ石清水乃
弥とて松一村あり行教和尚宇佐八幡神
を勸請乃時大菩薩本殿よ法ゆを落ひく
出る水乃らあよ清水を名ゆ〜まるよ水ゆる
足をまバをのぼらうゆ乃石ゆり流水
るゆれ出るゆりハ法ゆ水よ生れ是を石
清水の名乃ちめとをり平安城男山乃石
清水を大安寺ゆり法ゆ勧るゆるゆり法
どを石清水乃名ハ大安寺ゆり已ゆ男山

よありやゆハ大安寺ゆる男山ハ後とゆ二義
ゆひよあり石清水宋社記家よ天永四年四月真福
寺乃大元ゆ記事ありて大安寺本
宮乃神興をゆやあよ物りなゆんと浮宮し
をるゆ男山乃石清水八幡護國寺ハ大安寺
乃末ゆり法度神興上洛よ法ゆるくハあ
ゆべらゆゆゆ乃牒状を法ゆてゆり男山
護國寺よ是を披見して山義案ゆ至極
をり支行教和尚先男山よ勧請して後
大安寺ゆ法ゆ後業服大法師業
師寺ゆ法ゆ甚神法を法りゆゆ如何
本宮とゆをるやとして一味同心ハ却ひを
ゆゆゆ法句幣擯乃ゆゆみをるやゆハ

くハ朝野群載によりあり筆人より系後乃
あらそひ不的よ俗りきるやたてくり

陵

大安寺村乃東のそづきよ一基あり
山陵いにしへ乃法代ゆゑ乃山陵とハ
ちらず

辰市社 大安寺村の南よりあり

辰市社二座 俗よ酒乃宮とハ春日明神
麻酒より春日山ようりゆ勧ひし一説伝
ゆ説風秀行乃靈社なり 春日記

辰市

一村乃名よりハ雲出抑勅撰名所大
和とあり辰乃日市乃ちりあり 藻塩草

拾遺乃家の
辰市や日代酒賀乃そ
五二 名よ知ひく風もそよ
同東名所 辰乃道よ我名所
草庵集 弱田山家ま乃
山邊よ俗文的神の社あり俗よひ乃正社
やゆふそのひ乃東九条村よ者乃
清水あり

連歌百首 賣間清水
辰市賣間乃清水
散木集 辰乃市賣間乃清水
表濁国よ字曽馬あり勅撰名所よ表
濁国ハ市とハ
濁よ字紙乃

あまこのかりとと後撰遺集よりんくをるハ

義法師のり

帯解寺　辰市村乃うへを

帯解ちる乃地義ハ文徳天皇乃皇后藤原氏

辰市産たんうのうへ乃醫陰右道乃妙術

をくるゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

一説辰乃市義ハ和州添上郡ハ猿帯ハ地

義ありなどハ是と念じ給ひねやと考ふ

ゆゑて後世死冊心よりうゝ乃ゝ乃ゝ

生涯ゝゝ死ゝありをゝ乃帯解寺ゝ号

して遠ゝあり是より系治市ゝ流れし

を稱ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ今市乃里と名付ゝと縁

起よりゝゝんゝゝり

万葉巻十三

いぶやゝあゝ倭ゝゝゝゝゝゝ蒙ゝ

遠隔れ千里

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

千五百里

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

山家

分ゝゝし和ゝ系ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

真野　萩原

西ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

川内氏海の井乃名をば水汲とぞいふ
是もむかし下総国勝鹿乃真間野乃井よ水
汲下女ありあさ海ゝ紀あさきなねとそきくたぐ
しまして水汲むそのうらさへみて妻よ
もち給ひ信濃国乃国府に死ぬ時そ
んくくとおもふそ夜密乃船入江入水門
船ゝり寄よ女ゝしあ川ひく一生ゝ
らねよゝとなりてそ乃身を濡よるゆゝりそ
心とあるゝり又川しゝ海乃海ゝ乃てこゝよ
ゝり海ゝ乃入江まゝ乃江紀ゝ海ゝ乃うら
海ゝ乃井海ゝ遊ゝ乃ゝ皆山西ゝり又
曰ゝらゝもゝげ乃海ゝ乃萩原着ハ海乃ゝ家
ゝどゝあり歌あり或ハ大和国或ハ相模或ハ

陸奥国よりあり是ゝらよ海ゝひあへし可用意
ゝりと真義抄ゝよんゝゝり

大安良の墓

西紀ゝらゝび濃尾のみをあゝゝ
般足媛命乃墓延喜式太山守皇子乃墓日本紀
磐之媛乃墓日本紀奈良山よりとそ
大念佛宗大和国之本寺
大念佛宗ハ大和摂津河内ゝゝのゝゝり
ゝて和乃国ゝゝそれ故大和西乃本寺
七ケ寺とあゝゝ南都乃徳離寺郡山乃
円離寺楊井村乃栗原寺
ゝいぐゝ村乃宗福寺白石村乃真義寺東
岩村乃二階堂より一里許大念佛寺

▲抽本寺ハ摂津国ゲケノ郡ニアリテ大承山諸仏護念院大念佛寺ヒトツノ開基ハ良忠上人ニ出テヨリ後六代ノ後ヨリ中興開山ハ摂津国深江村乃法明上人ナリ

▲開山良忠上人ハ筑紫乃国富田乃人ナリ世間ノ異人顕密ヨヤンドモ紀人ナリアルヨリ浜ノ異人ナリテ山ヨリ上人ヲ尼ニシテ鶴通念佛ハ之ヲ人ハヒトリ唱ヘレバ信人ヨリ鶴通ヨヤ鶴通ヨリ信人唱ヘ申ヨリ又鶴通ヨリ切徳他ヨリ鶴通ヨリ上人諸国乃人民ヨリ是ニ出ヒヤヨリ神又天神地祇ヲ安トシテ唱ヘ念佛シ上人ヲアヤシミ讃人ヨリ信レバ多クハ宮ヨヤ神ハ是鶴ヨリ寺乃地門天ヨリトシテ

ゲ〻〻ニ世信ヒ文ヒヨリ上人鶴通念佛ヲ唱ヘ信人ヨヤ〻ヨリ紀天義二年二月一日ヲ〻リ紀ヒヨリ手六十一ハ上人ハ大原山ヨリ信ヒ〻〻来迎院ヲ〻〻〻〻又鬼魅乃拘ヒ〻〻〻〻

いうそう寺とぞいふなる行深江村乃法明上人
やしろあるなれとまつりやうしりるものや寡聞
てはまぶはあるとなんいふ法明とはいふ
我名をて俗乃称は和歌浦美あり往よ男山
八幡宮よりでたんと思ひしら俗れ枕を
のくハ所くより往ぶりさよ熊野ふやさ
きばあるとうの乃ものを男山八幡乃神へ
なりは和歌浦美あり往八幡の社内
よ鶴通念仏乃祖師良忠おさんとまして
一仏十菩薩乃画像あり びよ亀鉦鼓持
経乃法毎ごあり深江村乃法明上人鶴
通会仏とひろあ給べ記はありうの上人よ
あまつうのものとあるものの塔婆よ

深江村とぞいふ枕ハそのくぶ海乃
事よりて俗あり良忠よ美よまぶ
ぶ神勅事なりとてう乃寶物をえたせ
うり法明殆美もさまて俗れがんとこう
とくぞうけうりはは村乃慈願寺
化文八幡山放本坊よ
中なり神勅乃上人
戴なくぶ上人乃
仏十菩薩乃画像ハ自然あ現みて往内
よあり亀鉦鼓とハ島根院乃西くぶみを
良忠上人乃法布施よ張りーくぶ法華堂
乃縁ともなれうとて鉦鼓ぞ湯らきけ
往一とせ上人糟別尊屋乃浦を漕ワこう

きしけるよ波風たゝく船あやうりけるこゝ
ば
山鉦鼓や諸神乃ものゝ
てゝ波よそ入〳〵きるそれより遠風そゝ
やうに暮あり
鼓響〳〵ん〳〵ゝ法華を唱ゝ亀
鉦鼓とそなけれ是より亀鉦鼓とは名
けらきゝとゝりゝ又天より降臨乃樂一
流あり相大念佛寺ハ俊乃聞通あり
良悉上人乃門弟
自力聞通乃法
中絶しけるやう
▲地本寺大念佛寺より同例あり一佛十萬
薩乃畫像よそ多へきる秋春の覺乃餅飯

八幡野強土乃神ゝ
絶ハ幡野乃板
百丈ゝりゝ
前よそ多へ供養
飯餅彼岸
へゝ紀〳〵ゝよ
人よ是紀絶ゝ幡野乃餅
是ゝり又二月十一日幡野乃舎利あり
神輿三社ゝ
把ゝて
ゝ
ゝ
ゝ

くりてけ阿弥陀仏大会佛寺
阿弥陀仏

南都七大寺

東大寺　興福寺　元興寺　大安寺
薬師寺　西大寺　法隆寺　拾芥抄

十五大寺

東大寺　興福寺　一乗長者宅　元興寺　又豊福寺又建祖寺又建興寺
大安寺　元大官大寺　薬師寺　西大后寺　法隆寺
新薬師寺　聖武天皇　不退寺
超證寺　真如親王　京法華寺　光明皇后号法華滅罪寺
招提寺　新田部親王宅　真和尚　為戒壇　崇敬寺　拾王　龍興寺　宗鏡寺　已上十六ケ寺如拾芥抄
弘福寺

乃三川の三宮ぞ三宮大神宮

延喜式神名帳三十七座　大九座　小廿八座

摩川坐大神の御子の神社三座
摩川阿波神社
鳴雷神社
陸間神社八座
宇奈太理坐高御魂神社
和介坐赤坂比古神社
穴咋神社
和介下神社二座
太祝詞神社
神波多神社
天和目向神社
春日神社
春日奈神社四座
鳥田神社
天乃石敷神社
奈良豆比古神社
橋神社
宅布世神社
夜支布山口神社
賣太神社
赤穂神社
御前社原石辺命神社
五百枝神社

天石立神社

和州舊跡幽考第四卷終